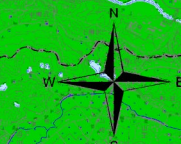


栗原市地震防災マップ

揺れやすさマップ 築館地区

長町—利府線断層帯の地震の場合



○ この揺れやすさマップは、活断層の地震である長町—利府断層の地震を想定した場合の震度分布を、100メートルメッシュ毎に表示しています。

○ 長町—利府断層は、仙台市から利府町にかけて、ほぼ南北に延びる長さ約40kmの活断層です。約3000年に一度程度の割合で繰り返し地震を起こし、前回の地震は約2000年前ではなかったかといわれています。マグニチュード 7.1の地震を想定しています。

○ なお、ここに示した震度は、地震の規模や震源の距離から予想される平均的な揺れの強さです。地震の発生の仕方によっては、揺れはこれより強くなったり、弱くなったりすることがあります。

■マップの作成手順

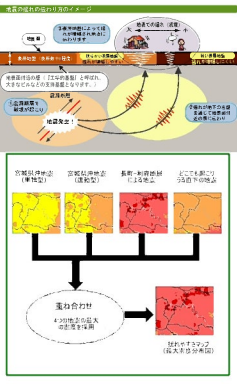
このマップの作成にあたっては、おおよそ次のような手順で、震度(揺れの大きさ)を予測しています。

○ 地域に影響の大きいと考えられる地震(活断層による地震)、海溝型地震(宮城県沖地震(単独型、連発型))と、その周辺に広がる下の地盤の硬さ、応力となる断層の規模や位置、地形などの情報を設定します。

○ それぞれの地域について、地盤の硬さや応力となる断層までの距離と地形による揺れの強さが変わる性質を用いて、「地表震度(地盤下の震度)」の揺れの大きさを計算します。

○ 次に「地盤(表面の地盤)揺れやすさ」を加味することによって震度を算出します。一般的に、岩石の地盤が軟らかいほど、また軟らかいのが厚く層状になっているほど、地盤震度は大きな揺れとなる性質がありますので、「震度」が大きくなります。

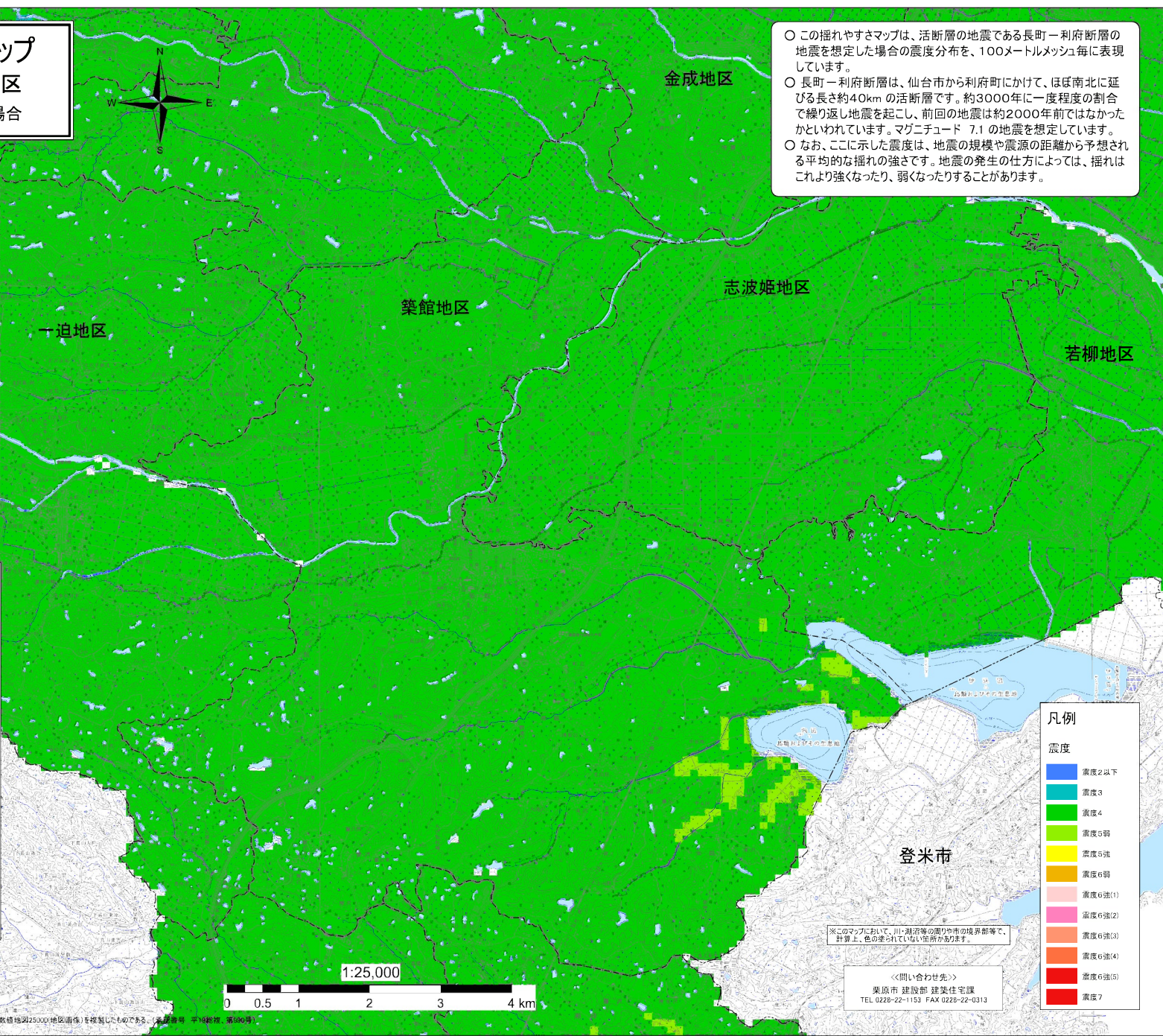
○ このマップでは、全域を100mメッシュに分割し、メッシュごとに地盤の震度を詳細に表しています。



■震度の大きさは震度とはにか?

地震が起こると、ある場所で揺れの程度を表すのが震度です。気象庁発表の震度(気象庁)は、気象庁観測所(気象庁観測所)によって震度を表しています。従来の震度(気象庁)は、気象庁観測所(気象庁観測所)によって震度を表しています。従来の震度(気象庁)は、気象庁観測所(気象庁観測所)によって震度を表しています。

震度情報	人間	屋内の状況	屋外の状況	木造建物
震度1	ほとんど気づかない			
震度2	気づく			
震度3	気づく			
震度4	気づく			
震度5弱	気づく			
震度5強	気づく			
震度6弱	気づく			
震度6強(1)	気づく			
震度6強(2)	気づく			
震度6強(3)	気づく			
震度6強(4)	気づく			
震度6強(5)	気づく			
震度7	気づく			



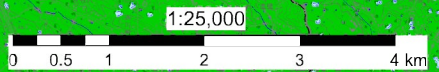
凡例

震度

- 震度2以下
- 震度3
- 震度4
- 震度5弱
- 震度5強
- 震度6弱
- 震度6強(1)
- 震度6強(2)
- 震度6強(3)
- 震度6強(4)
- 震度6強(5)
- 震度7

※このマップにおいて、川・湖沼等の周りや市の境界部等で、計算上、色の塗られていない箇所があります。

お問い合わせ先
栗原市 建設部 建築住宅課
TEL 0228-22-1153 FAX 0228-22-0313



この地図は、国土地理院長の承認を得て、同院発行の数値地図5000(地図確保)及び数値地図25000(地図確保)を複製したものである。(発行所: 栗原市 建設部 建築住宅課)